

2016

2016 年度 カナダ・アルバータ
大学夏季研修報告書



農食環境学群 環境共生学類

21553106 小林愛菜

8月26日に日本を出発し、私はカナダのアルバータ州エドモントンという街で1か月過ごしました。私は海外へ行くのが初めてだったので、毎日が新しい経験の連続でした。

留学は私にとって高校時代からの夢であり、このプログラムに参加するにあたって、英語のスピーキング・リスニングの力を高めること、日本と異なった文化に触れることを目標としました。ホームステイ先での生活、学校での授業、用意されていたアクティビティを通して、この目標は十分に達成することができました。

まず、ホームステイ先では、ホストファミリーと積極的に会話しました。話していてすぐに単語が出てこなかったり、文の構成が上手くいかないことも多くありましたが、ホストファミリーは最後までゆっくりと私の話を聞いてくれたので、落ち着いて話すことができました。夕食の間は、私以外の家族同士での会話が多かったので、リスニングの時間にしようと考え、集中して話を追いました。初めのうちは何について話しているのかさえわからなかったのですが、帰る頃には大体何を話しているのか理解できるようになり、少し話に加わることもできたので、大きな進歩だったと思います。

ホストファミリーとの生活は、私にカナダの食や暮らしの文化を教えてくれました。食文化で日本と大きく違うのは、食べ物を貯蔵する点です。スーパーマーケットで売っている物は全て日本より量が多く、買った物は大きな冷蔵庫で保存します。毎日のディナーも、その日食べる分より大分多めに作って、残った分はタッパーに詰めて保存していました。私のホストファミリーは共働きで、朝食とお弁当は自分で好きな物を食べるように言われ、夕食も大皿から自分の食べたい分を取り分ける形式だったので、食事の量が多くて困ることはありませんでした。

ホストファミリーは私を日本料理店に連れて行ってくれました。日本料理と聞いて、寿司や天ぷらを思い浮かべていたのですが、実際は鉄板焼きのお店でした。店内には浮世絵がたくさん飾られていて、メニューには「今晚は」「有難う」といった漢字が書かれていました。私達は大きな鉄板を囲んで座り、注文すると、お店の方が大道芸のようなパフォーマンスをしながら調理してくれました。やはりカナダの人から見た日本は、侍、武士道などのイメージが強いのだなと感じました。料理の味付けは完全に日本と同じではなくて、カナダの人の好みに合わせてありました。「ミソネーズ」という味噌とマヨネーズを混ぜたソースを初めて食べたのですが、意外と美味しかったので是非日本でも作ろうと思いました。

ホストファミリーの日常の買い物にも何度も同行しました。特に印象的だったのが、ホームセンターです。ホストファミリーが家の外壁を塗り直すと言うので、ペンキを買いに行きました。日本にはあまり自分で家を塗り直す人がいないので、日本のホームセンターにはそれほど多くのペンキは置いていませんが、カナダのホームセンターは、お店の4分の1くらいがペンキで埋め尽くされていました。カナダでは家の外装・内装などを自分で変えることが、日本より一般的なようです。



(ホストファミリーと日本料理店にて。壁には浮世絵が飾られています。)



(日本料理店のメニュー。)



(カナダで人気のファストフードであるプーチーン。フライドポテトにソースがかかっています。)

平日の朝 8 時から 12 時までは、アルバータ大学のエンタープライズスクエアという建物で英語の授業を受けました。事前に行ったプレイスメントテストによってレベル分けされたクラスには、様々な国から来た様々な年齢の生徒がいました。授業の内容は、リーディング・ライティング・スピーキング・リスニングの 4 技能をまんべんなく学べるものでした。週に 1 回、パソコンを使った授業もあり、そこでは主にリスニングの自主学习をしました。毎日宿題が出ましたが、長文読解や簡単な文法の練習問題だったので、日本人にとってはそれほど難しくありませんでした。

授業を受けていて一番驚いたことは、他国の方が本当に積極的に発言することです。疑問点があれば、どんな些細なことでもその場ですぐに先生に質問します。意見を求められると、そこまで聞いていないのに、と思うくらいの余談までみんなの前で堂々と話します。これは私を含め日本人に足りない所だと思います。

同じクラスに様々な国出身の生徒がいたので、カナダ以外の国についても知ることができました。休み時間には自分の国の写真を見せ合ったり、自国のお菓子を持ち寄って食べたりしました。全員が拙い英語でしたが、お互いに理解しあおうとすることでとても仲が深まりました。



(エンタープライズスクエア。毎日ここで授業を受けました。)

アクティビティは、Edmonton Humane Society や Edmonton Valley Zoo など、酪農学園らしいプログラムや、Fort Edmonton Park や Legislature Tour などエドモントンについて学べるプログラムが用意されていました。実際に色々な所を見て回ることができ、とても良い経験になりました。残念なのは、私の英語力が足りず、それぞれのツアーのガイドさんが話していることがよくわからなかったことです。これからもっと英語の勉強をして、もう一度行きたいと思いました。

個人的には、カナディアンロッキーツアーが一番印象に残っています。日本の山とはまた違った壮大な自然を体験することができました。特に、レイクルイーズでカヌーに乗ったことは私にとって忘れられない思い出です。360度どちらを見渡しても透き通った水が広がっていて、山と山の間を吸い込まれていくようでした。



(アルバータ州議事堂にて。)



(州議事堂内。カナダの全ての州旗が掲げられています。)



(レイクルイーズ。)



(レイクルイーズでのカヌー体験。)

エドモントンでの1か月間は私に、日本には得られない英語のスキルアップを与え、日本と全く異なった文化を教えてくださいました。また、日本語が全く通じない国での生活は大きな自信に繋がりました。今回の留学によって、私の世界は広がりました。世界にはまだまだ私の知らない場所があります。まだまだ知らない文化があります。私はこれから更に英語の勉強をして、世界中様々な国を訪れたいです。